

かわらぐちぼうじゅういせき

河原口坊中遺跡

(海老名市No.52 遺跡)

調査期間 20100801～20110430

所在地 海老名市河原口

時代

弥生
古墳
奈良・平安
中世
近世



作成日:20110530

概要

この調査は、神奈川県厚木土木事務所による相模川河川改修事業・さがみグリーンライン事業(自転車道整備事業)に伴って実施した発掘調査です。この事業による発掘調査は平成18年度から断続的に実施され、平成23年4月までの今回の発掘調査で一区切りとなります。

河原口坊中遺跡は海老名市河原口に所在し、神奈川県の中央部を流れる相模川の東岸の微高地上に広がる弥生時代から近世におよぶ複合遺跡です。これまでに行われた発掘調査によって、弥生時代中期および後期の集落跡、古墳



▲ H22年度 調査区全景

時代の溝跡や墓跡、奈良・平安時代の集落跡、中世の集落跡、近世以降の集落跡および生業遺構などが発見され、各時代の土器や石器、金属製品などが出土しています。

今回の発掘調査地点はJR相模線および小田急小田原線の厚木駅の北西約1kmに位置し、相模川沿いに築かれている堤防に沿った細長い範囲です。発掘調査前の標高は約21mです。今回の調査では弥生時代の河川跡を発掘しました。弥生時代に集落の中を蛇行して流れていた川の跡で、地下3mほどの深さで発見されました。現在の地表面には全く痕跡が残っていません。河川跡の埋土は土中の水分が多く湿地状態にあったので、通常の遺跡では腐って残らない木器がよく残っていて、弥生時代の農具や機織り具(はたおりぐ)、容器、建築材などが多数出土しました。出土した主な木器は、鍬(くわ)、鋤(すき)、エブリ、田下駄、臼、竪杵(たてきね)、高杯、鉢、皿、タモ網の枠、櫂(かい)、梯子(はしご・一木作りの昇降階段)、建物の柱材等々、種類も豊富です。木器の他には、弥生土器、石器、鉄斧、ト骨(ぼっこつ)等が出土しています。ト骨は、鹿の肩胛骨(けんこうこつ)などの骨を灼(や)いてヒビ割れの状態で占いをしたものです。また石器の中には、柄付きの環状石器(かんじょうせつき)がありました。これはドーナツ状に穴を開けた楕円形の石器に木の柄が差し込まれたものですが、このように石器に柄が付いたままの状態出土することは大変珍しく、具体的な使い方がわかる貴重な発見です。

これらの調査成果について、現在実施している出土品整理作業をとおしてまとめていきます。



▲ 調査風景



▲ 発掘作業風景



▲ しがらみ遺構検出状況



▲ 卜骨出土状況



▲ 堅杵ほか出土状況



▲ 柄付き環状石器出土状況